

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (ことば編)
- 3 童謡 故郷
- 4 回文 泣くなよ、泣くな
- 5 今月の詩 ちんちん千鳥 北原白秋
- 6 たし算 8の段
- 7 ことわざ 骨折り損のくたびれもうけ まかぬ種は生えぬ
馬子にも衣装 負けるが勝ち
待てば海路の日和あり
- 8 かけ算 9の段
- 9 俳句 田川移竹 松尾芭蕉 与謝蕪村
- 10 かぞえうた 1丁 1基 1両 (豆腐、鳥居、新幹線)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた ゾウさんとクモの巣
- 13 今月のうた 花のあいうえお
- 14 慣用句 へそを曲げる 腰を据える 骨を折る
- 15 イメージトレーニング スティーム (第8話 プレアデス星団)
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし 青い鳥
- 17 漢詩 谷口の書齋にて楊補闕に寄す
- 18 百人一首 貞信公 清原深養父 文屋朝康 権中納言敦忠
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

な
泣くなよ、泣くな



な	く	な	よ	な	く	な
---	---	---	---	---	---	---



ちんちん^{ちどり}千鳥

きたはらはくしゅう
北原白秋

ちんちん^{ちどり}千鳥の^な啼く^よ夜さは、
啼く^よ夜さは、
^{ガラス}硝子戸^どしめてもまだ^{さむ}寒い、
まだ^{さむ}寒い。

ちんちん^{ちどり}千鳥の^な啼く^{こえ}声は、
啼く^{こえ}声は、
^{あかり}燈を^け消してもまだ^き消えぬ、
まだ^き消えぬ。

ちんちん^{ちどり}千鳥は^{おや}親ないか、
^{おや}親ないか、
^よ夜^{かせ}風に^ふ吹かれて^{かわ}川の上、
^{かわ}川の上。

ちんちん^{ちどり}千鳥よ、^よお寝らぬか、
^よお寝らぬか、
^よ夜^{あけ}明の^{みょうじょう}明星が^は早や^{しら}白む、
^は早や^{しら}白む。



ことわざ

骨折り損のくたびれもうけ

あれこれ苦勞してやったのに、何の効果もなく疲れただけで終わること。



まかぬ種は生えぬ

何もしないで良い結果を期待しても無理である。



馬子にも衣装

どんな人でも身なりを整えれば、一応立派になり見栄えがする。



負けるが勝ち

無理して争うより、相手にいったん勝ちを譲った方が結果的に得になる。



待てば海路の日和あり

あせらずに待っていれば、いつかは幸福が訪れるものである。



俳句

霧^{きり}ながら 大^{おお}きな^{まち}町へ 出^{いで}にけり

田^た川^{がわ}移^い竹^{ちく}



起^おきあがる 菊^{きく}ほのかなり 水^{みず}のあと

松^{まつ}尾^お芭^ば蕉^{しょう}



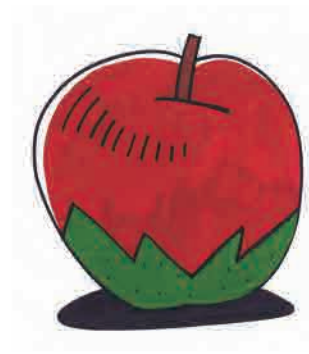
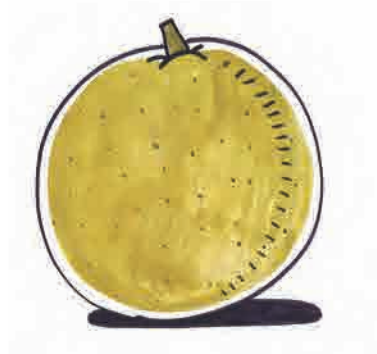
明^{めい}月^{げつ}や 今^け朝^さ見^みた^{ひと}人^{ひと}に 行^ゆき^{ちが}違^違い

与^よ謝^さ蕪^ぶ村^{そん}



なぜなぜ

- 1 さがしてもみつからない^{くだもの}果物なあに？
- 2 ^{あお もり}青い森でよくとれるという^{あか くだもの}赤い果物なあに？
- 3 ^{いと はり つか}糸や針は使わないで、^{ふえ}笛や^{つか}たいこを使うつりはなあに？
- 4 ミルクをさかさまにすると^で出てくる^き木の^み実はなあに？



《ゾウさんとくものす》

- ① ひとりのぞうさん
くものすに



みぎ手をパーにする。
ひだり手はおやゆびをたて、
からだのうしろからだして
みぎ手にちかづける。

- ② かかってあそんで
おりました



ひだりのおやゆびを、
みぎのおやゆびにから
ませ、うごかす。

- ③ あんまりゆかいになったので
もひとりおいでとよびました



ひだり手をうごかしながら
からだのうしろにかくす。

- ④ ふたりのぞうさんくものすに
かかってあそんでおりました
あんまりゆかいになったので
もひとりおいでとよびました

ひだりのおやゆびとひとさし
ゆびで、①～③をくりかえす。

- ⑤ さんにんのぞうさんくものすに
かかってあそんでおりました
あんまりゆかいになったので
もひとりおいでとよびました

ひだりのおやゆび、ひとさしゆび、
なかゆびで、①～③をくりかえす。

- ⑥ よにんのぞうさんくものすに
かかってあそんでおりました
あんまりゆかいになったので
もひとりおいでとよびました

おやゆび、ひとさしゆび、なかゆび、
くすりゆびで、①～③をくりかえす。

- ⑦ ごにんのぞうさん
くものすに

ひだりのゆびを5ほんたて、
①をくりかえす。



- ⑧ かかってあそんで
おりました



ひだりのゆびと、みぎの
ゆびをからませ、うごかす。

- ⑨ あんまりおおぜい
のったので



左右に7かいゆらす。

- ⑩ ドスンといとが
きれました



みぎ手のゆびをパッと
ひらき、ひだり手は下
におちる。

今月のうた

《^{はな}花のあいうえお》

きれいな^{はな}花の あいうえお

あざみ あさがお あいうえお

カンナ かたくり かきくけこ

さくら さざんか さしすせそ

ぼたん たんぽぽ たちつてと

なずな なでしこ なにぬねの

はぼたん はなしょうぶ はひふへほ

まんさく マーガレット まみむめも

やまぶき やまゆり やいゆえよ

ばら シクラメン らりるれろ

ひまわり わすれなぐさ わいうえを

きれいな^{はな}花の あいうえお



へそを^ま曲げる
機嫌^{きげん}を^{わる}悪くする。



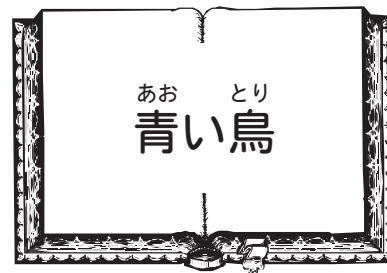
こし^す腰を据える
物事^{ものごと}にじっくりと^と取り組む。



ほね^お骨を折る
目的^{もくてき}を^{たっせい}達成するために、^{くろう}苦勞して^{いっしょうけんめい}一生懸命やる。



おはなし



「^{あお とり}青い鳥」は、^{あお とり}しあわせの^{あお とり}青い鳥をさがす^{あに いもうと}兄と妹の^{はなし}お話です。^{はなし}お話を聞いた^{あと}後で、^{しつもん}質問にこたえてみましょう。

- 1 ^{ふたり}二人が^{あお とり}青い鳥をさがす^{たび}旅をしたのはいつですか。
- 2 ^{まほうつか}魔法使いのおばあさんは、^こどんな子にしか^{あお とり}青い鳥を^み見つけることができな^いいと言いましたか。
- 3 ^{ふたり}二人が^{いちばん}一番はじめに^い行った^{くに}国で、だれに^あ会いましたか。
- 4 ^{おも}思い出の^{くに}国で^{あお とり}つかまえた^{あお とり}青い鳥はどうなりましたか。
- 5 ^{けっきょく}結局、^{あお}チルチルとミチルのさがしていた^{あお}しあわせの^{あお}青い鳥は^{あお}どんな鳥でしたか。



谷口こつこうの書齋しよさいにて楊よう補闕ほけつに寄よす

銭せん起き

泉壑せんがく 茅茨ぼうしを帯おび

雲霞うんか 薜帷へいゐに生しやうず

竹たけをば 憐あわれむ 新雨しんうののち後のち

山やまをば 愛あいす 夕陽せきやうのとき時とき

間鷺かんろ 栖すむこと 常つねに 早はやく

秋しゅう花か 落おつること 更さらに 遅おそし

家か僮どう 蘿ら徑けいを掃はらうは

昨さく 故人こじんと期きせばなり

百人一首

小倉山

峰の
今一
度
の
行
幸
待
た
な
む

夏の夜は

まだ宵
ながら
雲の
いづ
こに
月宿
るら
む

白露に

風の
吹
き
し
く
貫
き
と
め
ぬ
秋
の
野
は
玉
ぞ
散
り
け
る

逢ひ見
ての

後の
心
に
昔
は
物
を
思
は
ざ
り
け
り

(貞信公)

(清原深養父)

(文屋朝康)

(権中納言敦忠)



清原深養父